

『平成20年度

冬季東海・北陸地区国立高等専門学校長会議を開催』

---

平成20年度冬季東海・北陸地区国立高等専門学校長会議が、2月12日(木)・13日(金)に岐阜高専を当番校として、高専機構の木谷理事、金沢高専の山田校長を迎え開催された。

会議では、議長である榊原岐阜高専校長の挨拶の後、木谷理事から国立高専高度化への取組、第2期中期目標・中期計画の進捗状況等最近の高専を取り巻く状況についての説明があり、次いで、山田金沢高専校長から私立高専協会の現状と取組状況等について説明があった。

協議題として、「電子ジャーナルの購読について」、「就職支援を通じた企業との関わりあいについて」、「今後の高専ロボコンへの取組について」、「教員の発明に伴う特許申請経費の負担について」、「事務職員の定員削減に伴う非常勤職員、派遣職員等の採用状況について」及び「教職員の労働時間の短縮の対応について」の6件が提出され、各校の状況等を踏まえながら意見交換が行われた。

会議2日目は企業見学会を行い、岐阜県安八町にある三洋電機株式会社ソーラーアーク太陽電池科学館を見学した。



挨拶をする榊原校長(中央)、木谷理事(右)



ソーラーアーク見学の様子